

尾山神社神門の棟札には「避雷器工手 今村吉助」と記載されている。  
「今村吉助」とはどんな人なのか。



←「北陸名所図会」より尾山神社神門の景  
(明治30年発行、金沢市立玉川図書館  
近世史料館所蔵、金沢市画像オープン  
データより転載)。

尾山神社神門について調べてみると、『尾山神社神門』p.29『尾山神社誌』p.138-139『尾山神社神門保存修理工事報告書』p.15などに「避雷器工手 今村吉助」と確かに記載されています。

また、神門に避雷針を備える際には、金沢医学校教師のホルトルマンが意見を求められ、その試験に立ち合ったとの説が紹介されています。(p.15-17)

『尾山神社誌』p.162-164には、同じく金沢医学校教師のスロイスとホルトルマンが神門避雷針作成に関与したとの説が紹介されています。

『尾山神社神門保存修理工事報告書』、p.11注2には、「避雷線を設計したのはホルトルマン」との説が紹介されています。

このほか『明治初期の擬洋風建築の研究』p.173『尾山神社神門保存修理工事報告書』p.8などを調べましたがいずれの本にも、棟札の翻刻に「避雷器工手 今村吉助」と記載されていました。

質問の裏付けが取れたところで金属加工者の資料を探し今村吉助なる人物の調査開始です。明治期金沢における金属加工者について、『金沢市史 資料編 11 近代 1』p.712-775の「明治二八年明治二八年度県税中商業税分賦等級別交名簿」を見ていきます。

古銅鉄 12名(「富本町 今村吉平」の記載あり)、ブリキ・鉄葉 5名、鉄砲 1名、金物 87名(「七ツ屋町 今村安太郎」の記載あり)。似た名はありましたが見つかりませんでした。『明治大正期商工資産信用録 第2巻 明治42年 下 石川県の項』(復刻版)に今村姓は5名収録されていますが、金物関係者はいませんでした。

視点を変えて、『金沢鉄工史』掲載の年表を見ても今村吉助の名前はありません。

『金沢のブリキ屋』p.5-7には、袋町の田中つね雄と石屋小路の中島藤二郎が初めてブリキ職人として市内の大きな建築物造りに参画したと書かれています。尾山神社の神門修理に加わった可能性も指摘されていました。つまりブリキとか鉄工関連の職業の人ではなさそうです。

尾山神社の工匠長は津田吉之助と似た名前ですが、残念ながら、「今村吉助氏」は謎の人物として、レファレンス記録に残ることになりました。

詳しい調査結果はこちらをご覧ください。

[https://crd.ndl.go.jp/reference/detail?page=ref\\_view&id=1000219810](https://crd.ndl.go.jp/reference/detail?page=ref_view&id=1000219810)